

平成28年度 自己評価表 (計画段階・実施段階)

福岡県立久留米聴覚特別支援学校長

学校運営計画(4月)							評価(総合)	
学校運営方針		自己を肯定し様々な課題に主体的に取り組む意欲ある子供、言語力・考える力・コミュニケーション力や日本語の読み書き能力を身に付けた学力・体力を備えた子供を育成することを目指し、「言葉の森：パワフルキッズプロジェクトV」を推進する。						
昨年度の成果と課題		年度重点目標		具体的目標				
○「パワフルキッズプロジェクトIV」の推進により、自己肯定感の高まりが見られた。 課題：パワフルキッズプロジェクトの活性化、学力実態差に対応した指導の充実、聴覚障がい教育の専門性の継承、業務の効率化、年間行事の精選		学力・コミュニケーション力の向上		学習規律を確立するとともに、語彙の拡充や読書活動の充実を図り、論理的思考力を養う。また、話し合い活動や各教科・領域等及び「言葉の時間」における日本語指導を充実させる。			A	
		自己肯定感を高める取組の充実		小・中学部のパワフルキッズタイムの取組を活性化させたり、一人一人を大切に環境整備を行ったりする。また、障がい認識に基づいた自己発信力の育成を図る。				
		規範意識・社会性を高める取組の充実		全体計画に基づいたキャリア教育、人権教育、道徳教育の実践、社会性を高めるためのライフスキルプログラム等の実践を行う。互いを思いやり互いの良さを認めることができる学級・学部・学校運営を行う。				
		保護者・地域・関係機関との連携の強化		PTA活動を充実させるとともに、同窓会や後援会、関係医療機関・福祉機関・教育機関との連携を強化する。また、センター的機能を発揮し、地域の聴覚障がい教育に貢献する。				
		教員の聴覚障がい教育の専門性の向上と本校教育の継承		専門性を高めるための職員研修を実施するとともに、学校研究「伝え合う力に焦点をあてた授業づくり」を推進し、専門性の維持と継承を図る。				
評価項目	具体的目標		具体的方策			評価(3月)		次年度の主な課題
企画部	教務課	幼小中一貫性のある指導体制を構築し、指導内容の充実を図るとともに、業務の効率化を目指す。	(1) キャリア教育やライフスキルプログラムの一貫性のある全体計画の立案、実施に取り組む。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育研修会を開催し、高等部の状況や、進学、就職状況、卒業後の様子などについて研修し、本校での取り組みを再検討していく。 教務内規について見直し、様々なデータ等の取り扱いについて再検討する。 PTA活動の意図や内容をPTA総会や新聞を活用して早期に周知する。また、PTA研修について早期に希望を募る。 学校行事の案内を計画的にチラシや回覧板等で地域に周知する。 	
	情報教育課	情報教育をより充実させ、情報機器類の使用管理、環境整備を行う。また、ホームページを中心に広報活動の充実を図る。	(2) 校務文書や書式の見直しを行い、事務処理の効率化と情報管理の徹底を図る。 (3) 校務用・教育用パソコンやICT機器類の整備・管理を行うと共に教材バンクの運用と活用を促す。 (4) ホームページ作成のための研修会を実施し、学校ホームページの整備・管理を行う。	B	B			
	庶務課	保護者・関係機関と連携を図り、PTA活動の円滑化や本校教育活動の理解・啓発を促す。	(5) 本校教育活動やPTA活動について保護者と共通理解しながら活動内容を充実させ、円滑に進めていく。 (6) 関係諸機関との連携を図り、地域に本校教育活動及び幼児児童生徒への理解を促すための取組を行う。	A	A			
指導部	生徒指導課	規範意識や主体的に行動する力を高め、お互いに思いやり、良さを認め合う人間関係を育てる。	(7) パワフルキッズタイムで、鍛えて、挑ませ、ほめる取組を行い、自己肯定感を高める。 (8) いじめ・生活アンケートを実施し、児童生徒の実態を把握し、適切に対応する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 月のめあてを学級でも確認できるように掲示場所を検討する。 冬休み明けの学校生活アンケートも実施する。 緊急時対応訓練の内容を再検討する。 安全点検の方法を再検討する。 	
	保健課	健康で安全な学校生活を送れるよう、一人一人を大切に環境整備に努める。	(9) 緊急事態に備えた訓練を綿密に行い、マニュアルの周知・徹底を図る。 (10) 安全点検を行い、危険箇所の共通理解を図り、安全面に配慮した指導を行う。	B	B			
支援部	特別支援教育課	聴覚障がい教育の専門性の向上及び関係機関との連携を図る。	(11) 聴覚障がい教育の基礎的な研修会を実施し、専門性の向上を図る。 (12) 県南地区の自治体との連携を図り、センター的機能の周知と発揮に努める。	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 聴覚障がい教育の基礎的な研修会を今後も引き続き継続して行う。 今後も自治体との連携、情報交換を行う。 学校研究の方向性や計画を明確にしていき、新たな研究課題の共通理解を図る。 より良い研修の成果が得られるよう、十分検討を重ねていく。 	
	研修課	校内研究内容の共通理解を図り、各学部の研究を推進すると共に、聴覚障がい教育の専門性と実践的指導力の向上を図る。	(13) 全体会を実施して校内研究について周知を図り、各学部ごとに研修計画を見直し立案する。月一回、学部研修会を設定し、共通理解を図りながら研究を進める。 (14) 全体研究授業研修会では、検証授業の時期や内容を充分検討し、意見交換等を行う。また、研修会に参加することによって得られた情報や成果の共有化を図る。	A	A			
幼稚部		幼児のコミュニケーションの発達を促し、基本的な生活習慣の定着を図り、豊かな心と体を育てる。	(15) 期の計画や行事の内容を工夫し、発達段階をふまえた「話し合い」活動や言葉の学習の充実を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 「話し合い」活動の充実とことばの力を高める工夫を行う。 幼児の実態や対応の仕方について情報交換を行い、共通理解をする。 		
			(16) 個に応じた目標設定を行い、達成するための手立てを工夫する。	A				
			(17) 重複障がいや有する幼児や医療的ケア対象児の配慮事項を全体で確認し、状況に応じて適切に対応できるようにする。	B				
小学部		豊かな心の育成と、コミュニケーション力の向上を図り、学習意欲を高める。	(18) 交流及び共同学習を計画的に実施し、評価・改善しながら内容の充実を図る。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 交流及び共同学習では、事前事後学習を一層充実させていきたい。 保護者・教師間の連携を密にし、より実態に応じた取組を確認する必要がある。 		
			(19) 学習効率を高め、定着を図るため、配慮事項や具体的な手立てを充実させる。	B				
			(20) 望ましい生活態度・学習態度を適宜評価し、自尊心を高める。	B				
中学部		生徒のコミュニケーション力・書記日本語力・学力を伸ばすとともに社会性・主体性を向上させる。	(21) 生徒の実態に応じた習熟度別グループを編成し、個々の学力の向上に努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に応じた効果的な指導法について、情報交換や研修を行う。 日本語指導の時間の確保に努める。 教材等が共有できるよう、データの整理・保管に努める。 個人間の交流が深まるような活動を仕組む。 		
			(22) 実態調査に基いた課題別グループを編成し、日本語指導の充実を図る。	B				
			(23) 交流教育等の対外的な活動に積極的に取り組み、社会性を高める。	A				